

福祉 ぐんま

NO. 244
2013 春号

 社会福祉法人 群馬県社会福祉協議会



■主な内容

- * 日常生活自立支援セミナー・・・2
- * トップセミナー・・・3 * 海外研修報告・・・3
- * マンパワーセンター紹介・・・4
- * 子育て支援フェスタ・・・5 * 寄附紹介・・・5
- * ボランティア情報・・・6～7
- * 素敵な笑顔・・・8
- * 福祉・介護人材の採用状況・・・8
- * 福祉まめ知識・・・8

社会福祉法人明清会 グループホーム波志江の杜
四方田麻菜美さん
(関連記事は8ページに掲載)

 「福祉ぐんま」の作成経費として共同募金配分金を使用しています。

平成 24 年度 権利擁護セミナー開催

平成25年1月29日（火）、県社会福祉総合センター8Fホールにおいて「権利擁護セミナー」が開催されました。

今年は、國學院大學法科大学院教授の佐藤彰一氏をお招きし、「地域活動と権利擁護」というテーマで講演いただきました。



佐藤彰一氏

本セミナーでは、判断能力が不十分な高齢者、知的障害、精神障害者の地域生活を支える権利擁護の多様な支援組織（全国権利擁護支援ネットワークなど）の活動紹介を通して、「日常生活自立支援事業」の意義や役割について一層の理解を深めていくことを目的に、平成25年1月29日（火）に新前橋の県社会福祉総合センターにて開催いたしました。

講演

佐藤先生は、弁護士であり、國學院大學法科大学院で教鞭をとられています。また、後見人活動や地域活動を行うNPO法人の理事長でもあります。

今回は、「地域活動と権利擁護」というテーマで、権利擁護とは何か、権利擁護からみた後見利用、地域活動例について講演いただきました。

参加者の状況

参加者（311名）の約半数は日常生活自立支援事業の生活支援員さんでした。男女別では女性が6割、年代別では60歳代以上が約半数でした。アンケートでは、「非常に参考になった」「参考になった」の意見をあわせると、95%を超えました。

参加者からの声

ご協力いただいたアンケートには「先生の穏やかな人柄が伝わり、わかりやすい講義でした」「歌舞伎の黒子の例がわかりやすかった」「後見人は一人で支援するのではなく、ネットワークの一人として動くという大切さを知った」等の意見をいただきました。



高山直樹氏

平成25年1月31日（木）と2月1日（金）の両日、県社会福祉総合センター8階ホールにおいて、「苦情解決セミナー」が開催されました。

苦情解決セミナーが開催されました

平成24年度

し保育園園長の松本亨江氏にそれぞれ施設の概要、苦情解決体制の説明、事例報告等をいただきました。

参加いただきました方にアンケートをお願いしたところ、「理解しやすい講演だった」「事例報告内容を自分の施設でも実施してみたい」「時間が足りなかった」等の声がよせられました。事業運営上のご意見も多かったです、今後に反映させていただきます。



今年は、「福祉サービスにおける権利擁護と苦情解決」というテーマで、東洋大学社会学部社会福祉学科の高山直樹氏を講師に招き開催しました。

高山先生は、権利擁護の視点から、苦情の特徴、対応のありかた等をわかりやすく説明されました。

事例報告者には県内の施設から、特別養護老人ホームやまぶきの苑生活相談員の原澤雅彦氏、はるな郷事業推進室参事の関口秀信氏、二日目の事例報告者として、春日園生活相談課総括課長補佐の黒岩佳代子氏、あかい

市町村社協トップセミナー

地域における深刻な生活課題の解決や孤立防止に向けた社協活動の方向性を探ることを目的として、平成25年2月13日(水)に市町村社協トップセミナーが開催された。

本セミナーでは、「社協・生活支援活動強化方針」を取りまとめた、全国社会福祉協議会から野崎吉康地域福祉部部長をお招きし、方針策定の経緯とその推進方法の説明、今後の取り組みむべき方向性について講演を行った。

少子・高齢化の進行や働き方などの生活様式の変化などに伴い、地域の福祉ニーズは複雑化、多様化とともに深刻化してきている。さらに、経済情勢や雇用環境の厳しさも相まって孤立死や自殺、そして、ひきこもりなどの社会的孤立なども顕在化してきている。

誰もが安心して暮らすことのできる福祉のまちづくりの推進を使命とする社会福祉協議会は、こうした今日的な課題をも受け止め、その解決に向けた取り組みを図ることが求められている。

この「社協・生活支援活動強化方針」を推進するためには、第1に「相談と支援の強化を図る取り組み」、第2に「基盤整備の取り組みの考え方」、第3に「社会福祉施設、民生委員・児童委員等福祉関係者による連携及び取り組みの強化」が整理され、その具体的な行動として次の5つの項目にまとめら



全社協野崎地域福祉部長

れている。①あらゆる生活課題への対応、②相談・支援体制の強化、③アウトリーチの徹底、④地域のつながりの再構築、⑤行政とのパートナーシップである。社会福祉協議会は、従来からの援助技術をさらに強化するとともに、重層的に展開することが求められる。特に強調されることは、地域のあらゆる生活課題への対応であり、そのためには、相談支援体制の強化を図り、徹底したアウトリーチによりニーズの把握について、行動宣言として明記した点である。

社会福祉協議会の相談支援体制を再点検するとともに、その総合力が求められている。

平成24年度

民間社会福祉施設等関係者海外研修

去る11月4日(日)より11月11日(日)の8日間、県内各種施設17ヶ所より集まりました18名が、福祉先進国と名高いデンマーク、スウェーデン両国を訪問し、短い日程の中で約8ヶ所の視察研修を実施しました。

県内の民間社会福祉施設等に携わる者の資質の向上と、その識見を広めることで群馬県の社会福祉の増進を深めることを目的としているこの研修は、昭和60年より始まり現在は隔年開催で今年度23回目となりました。

移動日を除くと毎日2ヶ所の視察というハードスケジュールでしたが、どの視察先でも文化の違いや福祉に対する考え方の違いを理解しようと、熱心な質問が通訳を介して飛び交い、「何か」を吸収しようとする参加者の熱意が感じられました。

自分の所属施設・事業所という狭い世界でしか「福祉」を考えることのできなかつた頭に、広い視野から「福祉サービスとは」「今後のあり方とは」等を考えさせられた8日間でした。このような機会を与えてくれました法人理事長・施設長に感謝し、今後は県内の福祉向上を率先して進めていけるよう努力していきたいと思います。

※群馬県社会福祉施設経営者協議会の会員となっている法人職員が海外研修へ参加する場合は補助金が交付されます。

詳しくは、施設福祉課 TEL027-255-6034へお問い合わせください。



予定になかった高齢者福祉施設への飛び込み視察で

社会福祉法人 群馬県社会福祉協議会

群馬県福祉人材無料職業紹介所

群馬県福祉マンパワーセンター

ハートの
お仕事

応援します、 福祉の仕事



群馬県福祉マンパワーセンターおよび高崎市福祉人材バンク、太田市福祉人材バンクでは、福祉人材無料職業紹介所を開設し、福祉関係の職場への就職を希望している方の相談などを受け付けています。予約は不要です。登録・紹介は窓口3カ所とも同様の流れで行います。(土・日・祝日はお休みです)

◎福祉の仕事を希望する方に求人情報を提供し、就職のあっせんをします。

◎福祉資格等の相談に応じます。

◎福祉関係事業所の求人随時受付中。

インターネットによる求人情報検索

福祉のお仕事

検索

ケイタイはこちら→

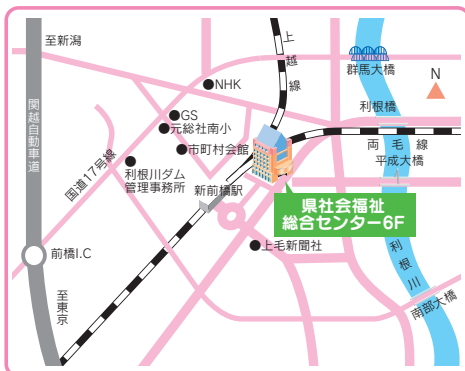
福祉のお仕事 mobile



あっせん
対象事業

老人福祉、介護保険
障害者福祉、自立支援事業
児童福祉(保育所・学童保育所など)
その他社会福祉関係事業

アクセスマップ



群馬県福祉マンパワーセンター

〒371-8525 前橋市新前橋町13-12

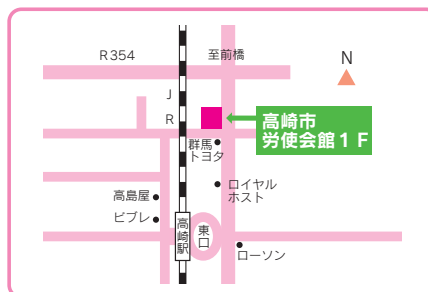
(群馬県社会福祉総合センター6階)

☎027-255-6600

利用時間: 9時~17時15分(月~金)

受付時間: 9時~11時30分

13時~16時45分



高崎市福祉人材バンク

〒370-0045 高崎市東町80-1

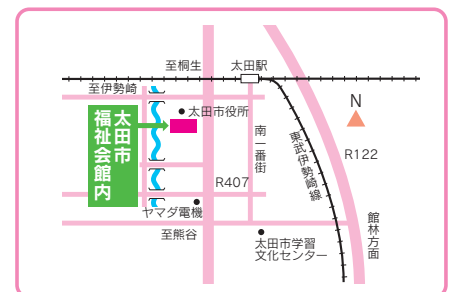
(高崎市労使会館1階)

☎027-324-2761

利用時間: 9時~16時(月~金)

受付時間: 9時~11時30分

13時~15時30分



太田市福祉人材バンク

〒373-0853 太田市浜町2-7

(太田市福祉会館1階)

☎0276-48-9599

利用時間: 9時~17時15分(月~金)

受付時間: 9時~16時45分

平成24年度ぐんま子育て支援フェスタ



ぐんま子育て支援センター連絡会及び群馬県社会福祉協議会では、子育て支援センター職員を対象にした会議や研修会を開催しています。

平成24年度も、様々な事業を実施した中で、去る2月16日(土)に「ぐんま子育て支援フェスタ」を開催いたしました。これは、広く子育て支援センターの意義や役割を広めるため、各支援センターの子育て支援の活動紹介などを通して子育て支援に関する情報を共有することを目的とするものです。

○開催の背景

核家族化や地域のつながりの希薄化などにより、家族や地域の中で、子育ての知恵や経験を共有することが難しく、さらに子育てに周囲の手助けを求めにくくなっている状況がみられます。また、長時間労働等により父親の家事・育児への関わりが十分でない中、子育て



「ユズリン」

が孤立化し、負担感が大きくなっています。そのような状況のなか、子育て支援センターの役割がますます重要となっています。

○プログラム

今回の子育て支援フェスタのプログラムは、「親子で楽しむユズリン ほっとほっとコンサート」「バルーンアートで遊ぶ」の二部構成。さらに、来場された方々に、各地の子育て支援センターを知っていただくため、子育て支援センターの活動紹介(簡易的な広報紙)を配布させていただきました。



バルーンアートで遊ぶ

ありがとうございます

群馬県社会福祉協議会にご寄附をいただいた皆様です。(平成24年4月1日～平成25年3月まで)

心より感謝いたしますとともに、趣旨に沿うよう活用させていただきます。

(順不同・敬称略)

〔前橋市〕 アイメディカル鍼灸整骨院、群馬カラオケ連盟、(財団)上毛新聞厚生福祉事業団愛の募金、生命保険ファイナンシャルアドバイザー協会・群馬県協会

〔渋川市〕 伊香保国際カンツリークラブ

〔東京都〕 あいおいニッセイ同和損害保険株式会社、MS & ADゆにぞんスマイルクラブ、NPO法人モバイル・コミュニケーション・ファンド



ボランティアセンター

富岡市社会福祉協議会ボランティアセンター

富岡市社会福祉協議会では、市と共同して平成18年より「ボランティアサポートセンター」を設置し、市民のボランティア・NPO活動の拠点として活動しています。

夏休みを利用し、市内の高齢者4施設と公立病院2施設のご協力をいただき、中学生ボランティア体験学習を行っています。今年度も69名の中学生が参加しました。いろいろな人・仕事・施設などから、普段気づかないことに気づき、多くの人たちと接するなかで暮らしや生き方などを理解する

ことができました。

教える者と学ぶ者の支え合いと相互理解によって、福祉を正しく理解するための「共に生きる力」が育成されることを期待しています。

「いつでも だれでも みんなでできる」

～ボランティアで ふるさと富岡を 元気にしよう!!～ をスローガンに地域福祉を推進していきたいと考えております。

富岡市社会福祉協議会ボランティアセンター

〒370-2316 富岡市富岡1439-1 あい愛プラザ内

TEL 0274-70-2232 FAX 0274-62-6223



中学生ボランティア体験学習（市内高齢者施設）

ボランティア情報

組織の垣根を越えた

「災害ボランティアセンターコーディネーター研修（初級編）」

平成25年2月21日（木）、群馬県社会福祉総合センターにて県内の関係機関職員向け「災害ボランティアセンターコーディネーター研修（初級編）」を開催しました。

新潟県社会福祉協議会より横堀氏、益子町社会福祉協議会より村田氏、小山町社会福祉協議会の松田氏、にいがた災害ボランティアネットワークの李氏に講師を務めていただき、それぞれの地域における災害時の経験や実践事例を通じて、災害ボランティアセンターの基礎的な機能や役割について学びました。

このセミナーでは、市町村社会福祉協議会職員をはじめ、行政機関や市民活動支援センター、連合群馬、日本青年会議所群馬ブロック協議会の職員の方々にもご参加いただき、午後は各グループに分かれ、カードを用いたワークショップを実施し、発災から災害ボランティアセンター立ち上げまでの初動期における一連の流れを学習しました。



発災直後に起こりうることを想定し、課題を出しあう参加者

社会福祉協力校

群馬県立藤岡中央高等学校

1 学校の概要

本校は、藤岡ICからほど近い場所に建つ創立8年を迎えた新設校です。文理総合学科・数理科学科の2科からなり、1学年6クラスの学校です。5階建ての校舎には、体育館やトレーニングルーム、合宿所も併設され生徒は充実した設備の中で、のびのびと勉学・運動に励んでいます。

学校教育目標の「優れた知力と自主自立の精神を持つ、心身ともにたくましい生徒を育てる」を掲げ、学力はもちろん、ボラ



クリーン作戦

2 福祉教育の目標

① 「ボランティアの藤岡中央」を合い言葉に、地域と連携したボランティア活動の推進を図る。
② 福祉体験活動を通じて、社会性やコミュニケーション能力を高め、他と共生できる生徒を育成する。

3 取り組み内容の紹介 《通年の活動》

- ① 環境委員による「学校をきれいにし隊」活動
- ② ボランティア委員による古紙回収・ペットボトルキャップ回収
- ③ 地域ボランティア活動への参加
- ④ 各ボランティア団体との情報交換会や研修への参加

《学期毎の活動》

- ① 和太鼓部による藤岡市立第二小学校PTAバザーに

おける演奏

- ② 子どもフェスティバルへの参加
- ③ 文化祭でのボランティア活動の発表（ヘンターアクトクラブ、和太鼓部）

- ④ 藤岡祭りでエコーステーションへの参加
- ⑤ 市内クリーン作戦

- ⑥ 高校生合同募金への参加
- ⑦ 歳末助け合い運動の実施

- ⑧ 小中高合同朝の挨拶運動
- ⑨ 東日本大震災被災地への災害ボランティア

委員会の活動として、環境委員会による月一度の校舎内外の美化活動やボランティア委員会による週一回の古紙回収活動は定着しており、今後も継続して活動していきたいと思っています。

4 3カ年の成果と課題

3年間の社会福祉協力校指定は、本校の教育目標の一つである「ボランティアの藤岡中央」に合致するものであり、日々の学校生活のさまざまな場面でそれを実践することができました。ボランティアをすることは、自分のためにもなる」ということを体得した生徒が多いように感じます。

今後は、地域との更なる活発な交流を図ることで、地域全体が活性化の一助にもなるのではないかと考えています。生徒の自主性を尊重しつつ「ボランティアの藤岡中央」の名を高められるよう今後も活動していきます。

ペットボトルキャップ回収時のお願いについて

途上国へワクチンを送る活動等を含めて、ペットボトルキャップの回収にご協力をいただきまして、ありがとうございます。

今回はペットボトルキャップの回収に際して、リサイクル業者からのお願いごとを含めて、回収時のルールについて紹介させていただきます。

キャップ回収時のルールとお願いごと

- ・リサイクルに使用する破砕機が故障する原因にもなりますので、ペットボトルのキャップ以外（その他のキャップ類や缶ジュースのプルトップ、テレホンカード等）のものは絶対にいれなでください。
- ・シール（キャンペーン用など）は必ずはがしたものにしてください。

＜お問い合わせ先＞ ぐんまボランティア・市民活動支援センター
〒371-8525 群馬県前橋市新前橋町13-12 群馬県社会福祉協議会内
TEL:027-255-6111 FAX:027-255-6444

春号表紙

素敵な笑顔

伊勢崎市にあるグループホーム「波志江の杜」で、精神保健福祉士として働いている四方田麻菜美さん。働き始めて3年目。仕事とプライベートのONとOFFを上手に切り替え、充実した毎日を送っています。



※福祉職を選んだのは何故？

高校生の時に精神保健福祉士という資格があることを知り、興味を持ちました。大学の実習で地域支援の重要性を学びました。大学時代、今の職場でボランティアしていたいろんなことを学ばせてもらい、ここで働きたいなと希望しました。

※仕事の内容は？

精神障害や知的障害を持った方たちの生活支援です。料理、洗濯、買い物といった日常生活一般と一緒にすることで、将来的に一人暮らしができるよう支援しています。その方一人一人にあった支援や声かけをしていくことが難しいですね。

※大変だなと思うことは？

利用者さんの人生に関わらせていただいているという責任です。また、日常活動の支援という仕事なので、仕事が終わってからも、あふいたら良かった…と引きずってしまいがちです。でも、ON・OFFを切り替えないとやっ

ていけないので、休日は自分の楽しみに使うようにしています。
※車椅子バスケットのマネージャーですね？

自分でも高校時代にバスケットをやっていました。基本は健常者チームのマネージャーと同じで、ドリントを作ったり、スコア付けたりと、選手と一緒になつてバスケットを楽しませてもらっています。

また、小さい頃から絵を見るのが好きで、いろんな美術館の企画展に行くことも好きです。今、興味があるのが臨床美術士。美術は右脳を活性化し、認知症の予防やケアに役立つと言われていて、先日、その体験講座に行ったのですが、資格を取ろうかなと考えています。

※福祉職に興味のある人へ一言？

福祉職と言っても、いろんな分野での支援の方法があります。いろんな施設でボランティアを受け入れていと思うので、そういう機会を積極的に利用して、現場の雰囲気を感じて欲しいですね。教科書に書いてあることだけではないことが、現場に行くときあります。

美術館に行くのが大好きという四方田さん。撮影は群馬の森の近代美術館でお願いしました。最近の上野の東京都美術館の「エル・グレコ展」に行くと楽しそうに話してくれました。

統計でみる、福祉・介護人材の採用状況

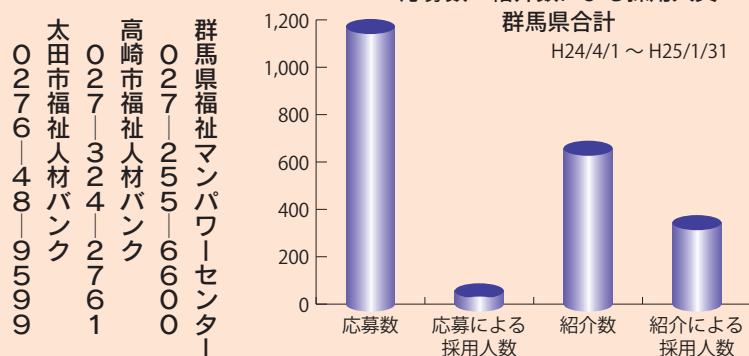
(平成24年4月～平成25年2月)

中央福祉人材センターが運用している、インターネットによる「福祉人材情報システム（COOLシステム）」の統計に基づき、昨年4月～今年2月までの11ヶ月間の採用人数について、「応募数」と「紹介数」とに区分した場合、下図の通りとなりました。都道府県全体では、応募による採用人数が、応募数全体の約5.2%。紹介による採用人数が、紹介数全体の約36.4%と約7倍の高さを示しました。また、群馬県の場合は、応募による採用人数が、約4.8%、紹介による採用人数が、約52.3%と約10倍以上の高さを示しました。この結果からみて、求人事業所に応募を考慮おられる方には、センター・バンクの「紹介状」をご活用いただきたいと思います。

応募数・紹介数による採用人員

群馬県合計

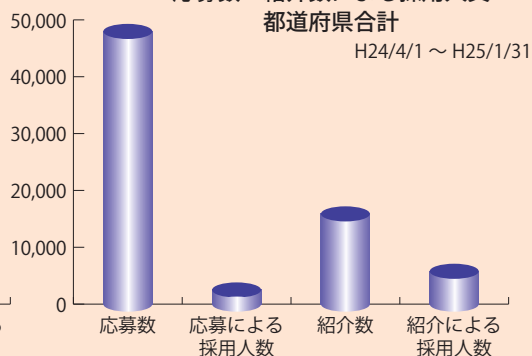
H24/4/1～H25/1/31



応募数・紹介数による採用人員

都道府県合計

H24/4/1～H25/1/31



福祉まめ知識

Q 「バリデーション」とはなんですか。

A バリデーション (validation) とは、米国のソーシャルワーカーが開発した認知症のお年寄り等とコミュニケーションを行うためのセラピーです。

騒いだり、徘徊することにも意味があるものと捉え、「共感」することに重点を置いた療法です。具体的には、優しい声で話す、思い出話をする、本人の言うことを繰り返す、ミラーリング (相手の動き、感情に合わせる) などの技法を使います。日本でも近年取り組む人が増えていきます。

編集／発行

社会福祉法人 群馬県社会福祉協議会

〒371-8525 (専用郵便番号)

群馬県前橋市新前橋町13-12

群馬県社会福祉総合センター内

TEL 027-255-6033 (代表)

FAX 027-255-6173

URL <http://www.g-shakyo.or.jp/>

発行日 平成25年3月31日